



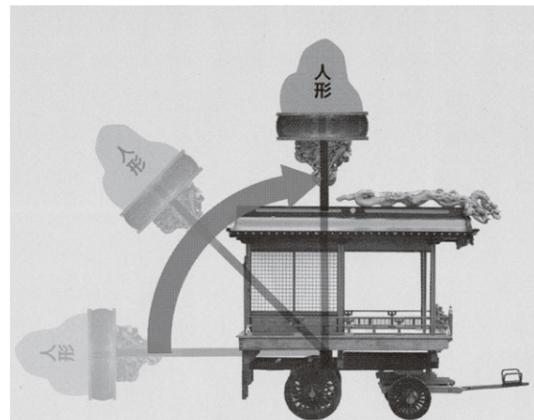
車台から上の部分(屋根上に載る龍の彫刻を除く)が復元修理された新宿町山車
(1924年)の墨書銘が入った部材が組み込まれています。新宿町では、大正13年(1924)

復元修理事業の報告
新宿区が令和4、5年の2ケ年で計画し、文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施した新宿町山車(町指定有形民俗文化財)の修理事業がこのたび完了しました。2年目となる令和5年度は、舞台の柱装飾になっ



ている四神彫刻のうち、未修理であった玄武・朱雀の木部補修、彩色修理を行いました。これにて四神すべての修理が終了し、朱色に極彩色の彫刻が映える、町内唯一の屋台型山車が復元されました。

山車の構造と来歴
越生町文化財保護委員の石井健氏の論考によれば、建造当初の新宿町山車は、人形の台座を取り付けた一本柱を山車の屋根を貫くように立ち上げる「八王子型一本柱建て人形山車」(多摩地域から埼玉県西部で多く建造された山車)と呼ばれる構造であったと推測されています。



後方から台座に人形を取り付けた柱を立ち上げる八王子型一本柱建て人形山車の柱を建てる際のイメージ画像
建造当初の「新宿町山車」のイメージ図
(『越生町指定文化財の山車』より引用)

で、車台に「文政十年丁亥六月吉日」(西暦1827年)の墨書銘が入った部材が組み込まれています。新宿町では、大正13年(1924)

に、小曾木(現青梅市)か、金子(現人間市)から譲り受けたと伝えられています。何らかの理由で使用されなくなつた人形台座は、現在、正法寺(大字越生)の閻魔像の台座に転用されています。もともとは、四神彫刻も台座柱を支える持送り彫刻として機能していたものでした。

新築町に山車が渡つてからこれまでに、昭和51年度(1976)に部材改修・塗工事、平成9年度(1997)に車輪・車軸修理、平成24年度には解体修理が行われてきました。今から約190年前

の江戸時代後期に造られ、巡り巡つて越生町へやってきた貴重な山車を、これからも力合わせて守り伝えていきたいと思います。



舞台の内側から見た持送り彫刻(四神)・左から朱雀、青龍、白虎、玄武

越生小学校



4月25日(木)に西入間警察署の方をお招きして、交通安全教室を開催しました。1・2年生は横断歩道の渡り方を、3~6年生は自転車の乗り方についてご指導していただきました。児童は、署員さんの話を真剣に聞いたり、実際に行ったりしました。安全第一、交通事故に遭わないように気をつけて生活できるよう指導していきます。

梅園小学校

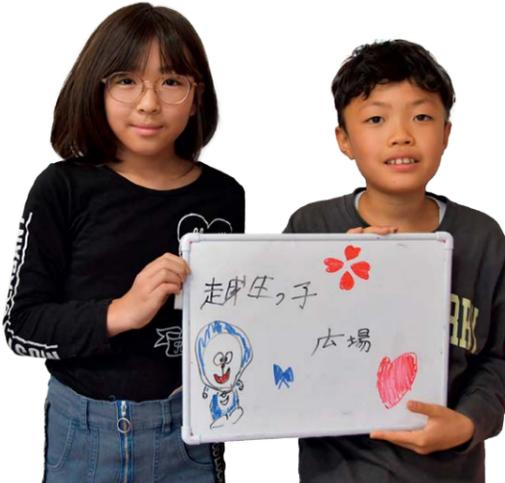
4月19日(金)は、全校なかよし遠足に出かけました。6年生~1年生で8つの縦割り班に分かれ、「弘法山」と「上谷農村公園」を巡りました。入学したばかりの1年生も一生懸命に歩き、公園では班を中心にみんなで楽しく遊ぶことができました。



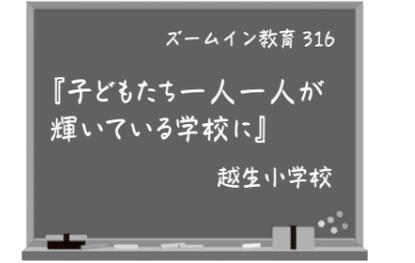
越生中学校



4月23日(火)より、1年生が部活動に本入部しました。自分を大きく成長させることができる部活動。3年間、一生懸命頑張り、多くのことを学んでほしいと思います。



おごせっ子広場
町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



本校は明治六年の開校以来、今年で百五十一年を迎えます。本年度も全教職員ですべての児童へ指導・支援を行い、二百七十三名の「子どもたち一人一人が輝いている学校に」を目指し、日々の教育活動に取り組みます。
本校の学校教育目標
○すすんで学び合う子
○仲良く助け合う子
○元気にやり抜く子
今年度の重点目標として、「知・徳・体のバランスの取れた教育の推進」をしていきます。
知・豊かな学力の育成
越生町で示している「家庭生活・家庭学習のすすめ」を活用し、学習習慣の定着を図り、学力の向上に努めていきます。また、今年度導入するAIドリルなどのICTを効果的に活用し、児童一人一人



「おはよう運動」や日々の体育活動を活性化させ、運動好きな子を増やし、体力の向上を図っていきます。また、清掃活動を充実させ、物を大切にすることを育成していきます。
本年度もどうぞよろしくお願ひします。

の学習意欲を高めていきます。
徳・豊かな心と道徳性の育成
「越生町の三つの徳」を推奨し、規律ある生活ができる子どもたちを育成していきます。また、自校に誇りをもつために、堂々と校歌を歌える子どもたちを育てます。さらに、地域の資源を有効に活用した体験活動を充実させ、郷土愛を育んでいきます。
体・心身ともに健やかな児童の育成